

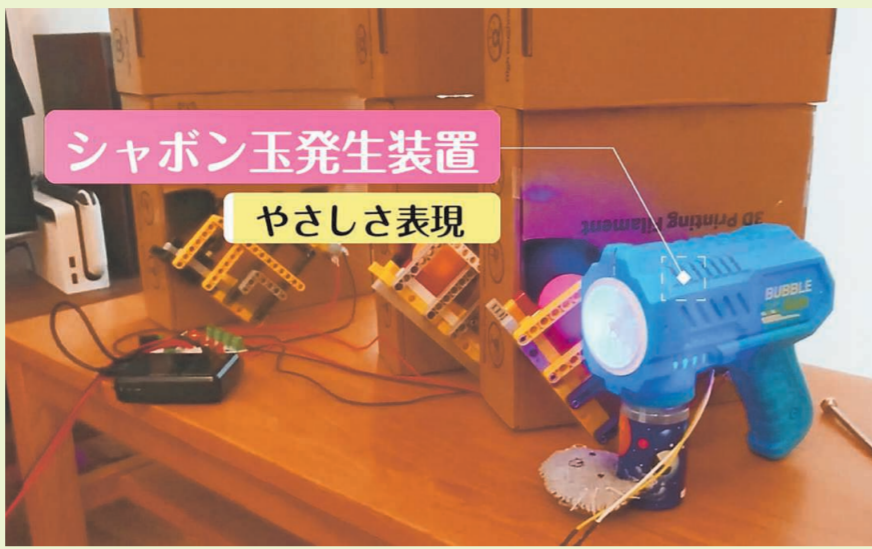
おかやまキッズプログラミングアワード2024

豊かな発想力で 自らの夢実現を

「みんなのむらい」をテーマに岡山県内の小学生がプログラミング技術やプレゼンテーション力を競う「おかやまキッズプログラミングアワード2024」(山陽新聞社主催)。第5回となる今年大会は13人・団体がエントリーし、昨年12月8日の審査会で地域課題の解決、自らの夢の実現に向けた発想力豊かな作品を発表した。県代表として全国大会に進むプログラミング部門最優秀賞の岡山市立江西小5年山下桃子さん(10)をはじめ、今回新設されたプレゼンテーション部門を含め入賞した5人と1チームの発表要旨を紹介する。(山本貴之)

音楽を一緒に楽しもう

「壁を越える装置」



シャボン玉発生装置

やさしさ表現

耳が聞こえない人と聞こえる人が一緒に音楽を楽しむための装置を作った。目指したのは、障害がある人のマイナスをゼロにすること。健常者と障害者の間の壁を越えるというコンセプトだ。

装置は音楽に合わせて動く。シャボン玉を飛ばしたりする仕掛けは、うまく動かなくて何度も作り直した。かわ



最優秀賞

岡山市立江西小5年

山下 桃子さん(10)

装置製作 達成感大きい

プログラミングだけでなく、いろんな装置を製作する楽しさを知った。開発は難しかったが、何とか乗り越え、最優秀賞にも選ばれて達成感は大い。全国大会では賞にこだわらず、プログラミング友達をつくりたい。

「壁を越える装置」を紹介する映像の一場面。音楽に合わせてシャボン玉を発生させる仕掛けを作った

プログラミング部門

アイデア賞

備前市立日生西小4年
桜井 花さん(10)



「夏休み町」

みんなが大好きな夏休みが永遠に続けばいいな。誰もが幸せで、のんびり暮らせる未来が欲しい。と思い、デジタル空間に町を作り上げた。

花火も楽しめる海水浴場、パーク、周りが見渡せる灯台などがある。弟は大きな音が苦手なので、防音の個室も備えた。一番注目してほしいのは、HAWAII畑。プログラミングを使って歩いた道が迷路になるよう工夫した。

私たちの未来がこの夏休み町のように、美しい自然と楽しいものに満ちた毎日になってほしい。

両備システムズ賞

岡山市立庄内小4年
杭田 賢太さん(10)



「かんぺき！明日の準備プログラム」

僕は学校で忘れ物をよくしてしまうので、明日の準備を簡単にできるプログラムを作った。

先生がクラウド上に次の日の持ち物リストを保存すると、生徒がコンピューターで確認できる。教科書やノートに貼り付けたQRコードを読み取るとリストから消えて、全部なくなると明日の準備は完璧！という仕組み。

最初は対象を撮影する方式にしたけど、手や顔が写ってしまい、正しく認識されなかった。QRコードなら確実。もっと勉強して、教科書を入れたら認識できるランドセルを作りたい。

優秀賞

チームきょうだい

真庭市立北房小6年 哇田 真理さん(12)
同5年 悠正さん(11)



「北房の古墳大調査！」

真庭市の北房地域には250基以上の古墳がある。地域で大切にされてきた古墳の魅力を着目し、楽しく学べるゲームを作った。

特に見てほしい6つの古墳を選んだ。地図上の古墳マークにカーソルを当てると名前が表示され、クリックすると説明を読んだり、「お宝」を手に入れたりできる。お宝は全て集めるとメッセージが表示される。出土品にちなんだオリジナルキャラクターも添えた。北房の古墳について多くの人に知ってもらい、訪れてくれる人が増えるよう、このゲームでPRしていきたい。



優秀賞

岡山市立平井小6年
広井 一希さん(12)



「パイロットへの未来」

僕の発表は将来の夢、パイロットへの未来について。パイロットになるためにはどのような道があるのか、必要な資格と能力を調べた。

操縦士と機長はそれぞれ国家資格があり、航空会社に入れば働ける。資格取得のことが出来る。航空大学に進学すれば授業で取得でき、航空業界への就職も有利になる。

トラブルに対応する判断力や視力、どんな人ともコミュニケーションを取れる能力も必須だ。離陸前に作成する飛行計画は役割に関係なく意見を出し合っている。

最優秀賞

倉敷市立庄小3年
三宅 瑛太さん(9)



「米のミライ」

僕の住んでいる地域は田んぼに囲まれている。お父さんは米を作っている。だけど、米の未来に危機が訪れている。ジャンボタニシが稲を食べているからだ。僕は米を守るために立ち上がることにした。

タニシの卵を数えると、雑草が短い田んぼには少なかった。水槽で飼育して観察すると、レタスが好きたということが判明。田んぼの草を刈って卵を産みにくくし、餌としてレタスを入れれば稲を守れることが分かった。

タニシと仲良くして、米を守りながら生きていきたい。

プレゼンテーション部門

講評

課題や困り事に感銘 技術探究する姿に感銘

岡山県教委義務教育課参事 尾谷恵理氏 どの作品も一生懸命考えられていて感動した。発表ではアニメーションを使うなどの工夫を凝らし、表現面もはきはきと感情を込めて話していて良かった。

岡山県立大情報工学部助教 坂口浩一郎氏 年々レベルが上がっている。賞を取りたいという熱い思いも伝わってきた。初めての人も常連の人もいると思うが、これからもプログラミングを続けてほしい。

両備システムズビジネス戦略本部執行役員 福田利行氏 うまくいかなくても別の技術を探求する

姿に感銘を受けた。ソフトは作って終わりではなく運用が難しいが、その点に着目した作品もあり素晴らしい。

岡山県立大D.S部 池坂和真氏 プログラミングで何が出来るようになりたいか、発表では何を伝えたいかを明確にすることが大切。狙いや意図を持って制作に当たれば夢もかなうはずだ。

山陽新聞社営業局事業本部長 清水玲子氏 県内各地から集まってくれてうれしい。楽しく、未来がある発表だった。子どもだからこそ見える課題や困り事はたくさんあり、そこに挑戦してもらえた。

私たちはプログラミング教育を応援しています



最適創造で未来を切り拓く

株式会社 システムズナカシマ
設備用CADや営業支援システム、AI・IoT・ドローン等を活用したシステムの開発を行っています。



oic 岡山情報ビジネス学院
0120-68-2336 https://www.oic-ok.ac.jp/

ともに挑む、 ともに創る。

真心からの思いやりと確かな技術力で
想像もつかない世界を創り出し
幸せの選択肢を増やします。

私たちは未来を創る子ども達を応援し、おかやまキッズプログラミングアワード2024に協賛しています。



〒700-8508 岡山県岡山市北区下石井二丁目10番12号
社の街グレース オフィスクエア4階
TEL:086-264-0111 https://www.ryobi.co.jp



未来をつくるのは
きみだ!



本大会は、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTRAS)の共通目的基金の助成を受け実施されています。